

No. 1213

ぶらり紀行

— 京都・嵯峨野 —

何のあてもなく、ぶらりと旅に出る人々。そんな旅人をいつでも、やさしく迎えてくれる京都・嵯峨野。四季折々に様々な魅力を持つ古都・京都。今京都には観光シーズンというものはない。いつでも、どこでも旅人の姿を見かける。詩と夢をたたえる嵯峨野。

壁に掛ったみのと笠がこの落柿舎の主、向井去来の風流を象徴する。竹藪の中にひっそりとあるささやかな草庵、祇王寺。平家物語の哀史をしのばせる。化野の墓守り寺として知られる念仏寺。約8000の小さな石仏、石塔が整然と並ぶ。名もなき死者の群れは犬に食われ、風雨にさらされ白骨と化していく。人々は眼のあたりに白骨を見て、無常の世界を知る。ぶらりと旅に出て、思いもよらぬ新しい発見をする。それが旅のよさである。

春風にのせて？

本格的な春の観光シーズンがやってきました。

今年も東京のある定期観光バスの会社では96名新人バスガイドを入社させてシーズンにそなえました。先輩のウグイス嬢に続けとばかり、初乗車を前にテキストにかじりつきで最後の訓練を受けています。いよいよ実地訓練です。走るバスと覚えてたての言葉がなかなか合いません。忘れたり、とちったり。それでも先輩に手とり足とりコーチされて頑張ります。

車窓の案内に続き、下車しての名所、旧跡の説明。すでに活躍している先輩たちを横目に見ながら、一生懸命くり返します。この会社の観光コースは10以上もある、覚えることは山ほどある。同僚の説明にも自然に口が開き、最後には大合唱。春風にのってさわやかにとはなかなかいかないようです。